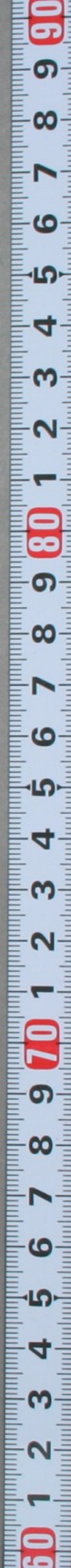


圖畫

和漢船用集

一

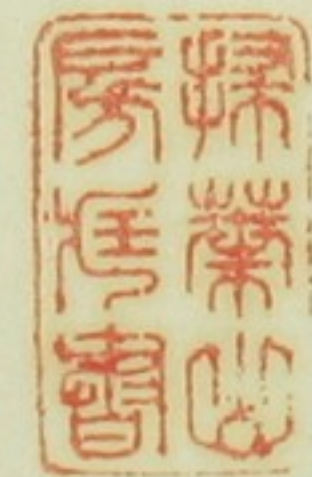
特別
△ 8
467
1



門人 8
載 467
卷 1



叙



易稱利涉大川。匪馮河
之謂矣。剡木為舟。蓋取
諸渙。重任輒移。遠道
能致。舟之為器。用大矣。

哉。而制有規矩。工有巧拙。海有南北。江有深淺。地有險易。水有緩急。平之底。銳下。長短廣狹。各稱其宜。安危間一故。不可

不樸。屬也。不樸。屬無以爲完久也。巧拙之利害。不亦大乎。夫業精于勤。成于思。雖小道。然浪華。金澤氏家世舟匠。傳其

規矩亦多矣。至兼光更
博探旁求。作為是書。諸
國風土各制。以至於華
夏蠻夷。莫不悉載。豈
非勤其業者乎。所謂巧者

速之者。與而其巧不在手
藝。在其心。智。國有六職。
自王公至百工。皆各不
育業。為世固多。居其職
而不知其業者。余有感

まりこと何の^{ニサイ}渡貝賊と去^ド藏の中^{ウツ}に秘^{ホウ}に及^グたれ
 櫃^{ヒツ}ふして^ス敷^{クシ}を^エと^レ得^エたり是と^フん^ハて^ハ亡^{バウ}父^フ
 隆存の紀録先祖の家系秘法の巻数条なり
 予に^{モウ}至^{ケシ}七世二百余年に及^{コウ}へ^{カウ}里^{ソウ}五^ウ里^リ白^{ハク}六^{ロク}高^{カウ}曾^{ソウ}
 の^{キク}規^{モチ}矩^ユと^エ用^{ナシ}淮南子に曰^ジ規^{キク}矩^{モチ}を^ユ用^{ナシ}は^ジ方^{ハク}圓^{エン}成^{ハク}
 定^{キヨク}る^{キヨク}こと^{キヨク}何^{キヨク}ら^{キヨク}の^{キヨク}準^{キヨク}繩^{キヨク}を^{キヨク}用^{キヨク}は^{キヨク}し^{キヨク}て^{キヨク}方^{キヨク}圓^{キヨク}成^{キヨク}
 何^{キヨク}ら^{キヨク}の^{キヨク}規^{キヨク}矩^{キヨク}と^{キヨク}用^{キヨク}は^{キヨク}し^{キヨク}て^{キヨク}方^{キヨク}圓^{キヨク}成^{キヨク}
 なる^{キヨク}は^{キヨク}皆^{キヨク}其^{キヨク}規^{キヨク}矩^{キヨク}と^{キヨク}い^{キヨク}く^{キヨク}秘^{キヨク}と^{キヨク}ん^{キヨク}じ^{キヨク}る^{キヨク}知^{キヨク}の^{キヨク}規^{キヨク}矩^{キヨク}

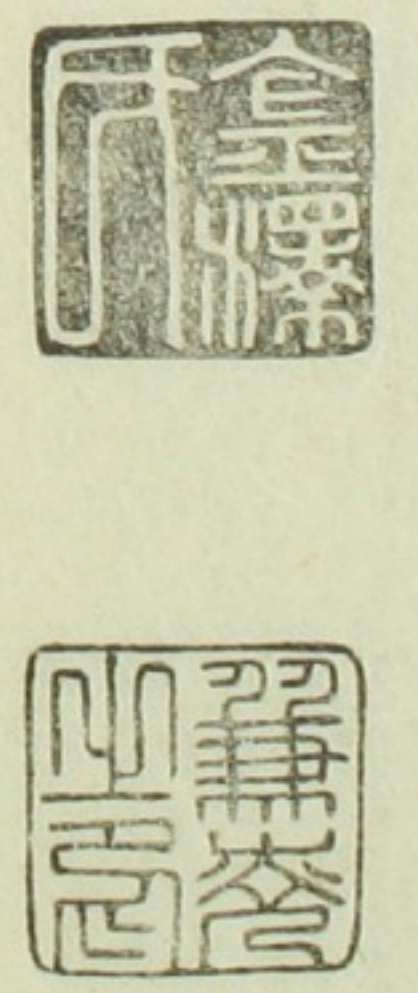
^{ハヤ}子^シ 舸^カ法^{ホフ} 檣^{カウ}掛^{カク}何^カの^カ帆^カ掛^{カク}る^カ尋^{ヒロ}掛^{カク}る^カ摸^イ定^カ法^カ何^カの^カ
^{ワリ}タ^レ 割^ワ出^リ法^{ホフ}あり^カ本^ホ刻^{カク}本^ホ舟^{フネ}何^カの^カ右^ミ方^{マダ}三^{サン}法^{ホフ}ふ^カす^カて
^ツニ^ヒミ^カ 是^{コト}を^シ書^キみ^カを^シ或^ハハ^カ本^ホ屋^ヤ入^カ針^チ始^{ハジ}航^{カウ}若^ニ筒^{ツツ}之^ノ船^{フネ}卸^カ
^ジユ^モン^{サイ} 等^トの^ノ咒^{ジュ}文^{モン}祭^{サイ}文^{サイ}及^シ舟^{フネ}法^{ホフ}家^カ系^{ケイ}と^シ名^ナ分^{ブン}り^カもの^ノ何^カの^カ
^フク^ヨウ^ン 是^{コト}を^シ得^エる^カ至^シ衣^イ服^{フク}膺^{ヨウ}る^カ心^{シン}と^シ委^ウ累^{レイ}を^シ道^{ダウ}を^シ
^シカ^クニ^シラ^ズ 何^カの^カ川^{カハ}上^{カミ}和^ワ泉^{セン}塘^{トウ}高^{カウ}橋^{キョウ}。長^{チヤウ}谷^{コク}川^{カハ}の^ノ規^キ矩^コ
 亦^モ元^{ゲン}録^{ロク}の^ノ比^ヒ言^{ゴン}濃^{ノウ}在^{ザイ}盤^{パン}の^ノ長^{チヤウ}谷^{コク}川^{カハ}市^シ之^ノ流^{リウ}と^シ云^ク者^カ
 其^{コト}甚^シ穢^{タイ}を^シ秘^ヒ何^カの^カ規^キ矩^コ本^ホ刻^{カク}彼^カ是^{コト}

中実公用集 自序

其^ダ子^{ナゲウチ}と業^{ゲラ}小^{ナゲウチ}抛^{ナゲウチ}を公^{ナゲウチ}と祝^{ユタコ}維^{ユタコ}小^{ユタコ}委^{ユタコ}志^{ユタコ}を勵^{ハム}一^{ハム}切^{ハム}
乃^{シヨ}一^{シヨ}船^{シヨ}ともち^{シヨ}く^{シヨ}ん^{シヨ}く^{シヨ}と^{シヨ}る^{シヨ}と

寶曆辛巳中夏下旬

攝陽堂島古地金澤兼光書



凡例

一 此書と綴^{ヅル}ことハ偏^{ヒト}小^{トウモウ}我^{トウモウ}を蒙^{トウモウ}のためよま^{トウモウ}る^{トウモウ}とい^{トウモウ}ともん^{トウモウ}
日本^{カイコク}ハ海^{カイコク}國^{カイコク}と^{カイコク}く^{カイコク}る^{カイコク}水^{カイコク}國^{カイコク}と^{カイコク}は^{カイコク}く^{カイコク}る^{カイコク}の^{カイコク}也^{カイコク}と^{カイコク}く^{カイコク}
船^{モチヒ}と^{モチヒ}用^{モチヒ}す^{モチヒ}とい^{モチヒ}ふ^{モチヒ}と^{モチヒ}く^{モチヒ}る^{モチヒ}か^{モチヒ}ら^{モチヒ}ず^{モチヒ}
本^{タイガ}邦^{タイガ}海^{タイガ}を^{タイガ}に^{タイガ}國^{タイガ}十^{タイガ}有^{タイガ}三^{タイガ}其^{タイガ}國^{タイガ}大^{タイガ}河^{タイガ}江^{タイガ}湖^{タイガ}と^{タイガ}船^{タイガ}と^{タイガ}用^{タイガ}す^{タイガ}る^{タイガ}
の^{ウシソウ}國^{ウシソウ}一^{ウシソウ}箇^{ウシソウ}國^{ウシソウ}も^{ウシソウ}つ^{ウシソウ}ら^{ウシソウ}う^{ウシソウ}く^{ウシソウ}遠^{エン}方^{エン}他^{タイ}邦^{タイ}とい^{タイ}ふ^{タイ}も^{タイ}物^{サイ}物^{フツ}を^{サイ}
運^{ウシソウ}送^{ウシソウ}し^{ウシソウ}日^{ウシソウ}日^{ウシソウ}を^{ウシソウ}用^{ウシソウ}を^{ウシソウ}ち^{ウシソウ}と^{ウシソウ}そ^{ウシソウ}船^{ウシソウ}よ^{ウシソウ}り^{ウシソウ}の^{ウシソウ}人^{ウシソウ}とい^{ウシソウ}ふ^{ウシソウ}も^{ウシソウ}
文^{ウシソウ}字^{ウシソウ}及^{ウシソウ}そ^{ウシソウ}の^{ウシソウ}を^{ウシソウ}詳^{サイ}ふ^{サイ}せ^{サイ}其^{サイ}事^{サイ}を^{サイ}記^{サイ}せ^{サイ}る^{サイ}書^{サイ}教^{サイ}多^{サイ}り^{サイ}
とい^{サイ}ふ^{サイ}も^{サイ}和^{セウ}名^{セウ}抄^{セウ}船^{セウ}艦^{セウ}と^{セウ}舟^{セウ}具^{セウ}の^{セウ}記^{セウ}と^{セウ}い^{セウ}ふ^{セウ}一^{セウ}和^{セウ}名^{セウ}八^{セウ}を^{セウ}
植^{ウシソウ}ふ^{ウシソウ}た^{ウシソウ}ち^{ウシソウ}一^{ウシソウ}小^{ウシソウ}舟^{ウシソウ}を^{ウシソウ}注^{ウシソウ}せ^{ウシソウ}り^{ウシソウ}と^{ウシソウ}く^{ウシソウ}と^{ウシソウ}く^{ウシソウ}て^{ウシソウ}書^{ウシソウ}り^{ウシソウ}
次^{ウシソウ}に^{ウシソウ}舟^{ウシソウ}書^{ウシソウ}く^{ウシソウ}は^{ウシソウ}載^{ウシソウ}さ^{ウシソウ}る^{ウシソウ}船^{ウシソウ}と^{ウシソウ}拾^{ウシソウ}得^{ウシソウ}を^{ウシソウ}く^{ウシソウ}は^{ウシソウ}一^{ウシソウ}船^{ウシソウ}方^{ウシソウ}の^{ウシソウ}

云を授正して要用に便す

一 此れ在區あしてさうろくは故に和漢世に本文を
挙ぐる是を改まて河うりといへとも是を一也法流
のときハ悉後に此

一 九号のとき法流是を聚又或回を役て是を好ま
舟玉神のときハ我とてく此海すへきふりねとも
船乃とてつり又のときへきりもあはるは書

一 舟名数ハ和漢古昔より傳來る如書こふ載する
所又ハ俗よ呼わくハせる如の名とを采聚海舟川
の番しき人よつわくはきうむへ

船獵船軍船とあり池は和漢名は其下示ス

一 日國号村置れ名如と和若和漢ともは多し所謂
三鮮治は准舟傍停と云の如くしてかきるべり
ら此書籍に載る及ふ如又ハ昔より呼來て國

一 日漢古の船南京福州障州阿際陀等今在傍
及ふ如とをあるは
及入津とそ外獵船軍船と書くは載する如を
拾集る是を此

一 本邦の船ハ河海江湖悉ふ是を此にといへる細目
及くハ吳船といへる是を采に違はるは
一名數河の船ハ雲沙抄藤垣菱の河上を又和名歌其

新本集よりあつて是を集

- 一 舟乃其名書くと指ひ載るるといへとも其指して計へくは或は係連航の連人モ情をよとらる及くハ又一の趣をも得んり候る細よさるををぬ
- 一 凡舟の名あつて取有れば若かり船の名をて別おきそ取をて別
- 一 船の處名を呼と遠方他邦よきてハを如何くぞん記に記標あり所子船法の名を若方法符又冠書ふ載る候と交考して是を等或は日お其あり即ちの標に水の根強波の芦俣勢の深狭候る名ハ表記し又ふ多の者ハ控て是と

- 一 釘金物に俗母候又書ふ出つておを集て是と記と其候る候て名をのこしハ取と名に記之
- 一 用具の品俗語及書くと載る候と指聚る候
- 一 大工道具是又和名抄下字集其蒙品蒙節用集其亦書ふ載るといへとも今用る候の十り一あれハ俗語といへとも是ととりて名をかむ大器を撰其切実切當の取工匠此用る候の取は是と除く
- 一 凡百工其職と勅力と取す列子日工ハ術と追追ハ治也と皆術と取く秘と凡舟法教条有り名取用具處名よとくハ是よ入の欄番匠をて

越あうしめん
 一 韓非子曰智如睫能見百步外自不見其睫
 こゝまたましく前賢の^{アキ}る^{アキ}る^{アキ}と^{アキ}る^{アキ}く^{アキ}自其^{ミツカ}非乃
 む^クう^クん^クと^ク睫の^ク後^クの^ク人^ク是^クと^ク正
 さる幸甚ちうん

凡例終

和漢船用集惣目

第一卷

序

凡例

舟太初

諸説辨疑

第二卷

舟船之字義

丸号之事

船艘之事

舟用禮格之事

舟造用木之事

舟船飾之事

棹歌之事

舟玉神并船菩薩之事 附船神之事

第三卷

舟名數海船之部

第四卷

舟名數海船之部

第五卷

舟名數川御座荷船并江湖舟之部

第六卷

舟名數河海江湖獵船之部

第七卷

舟名數軍船之部

第八卷

舟名數詞之部并異名之部

第九卷

有舟形無用之部

有舟圖無形之部

七夕為舟之部

非舟為船之部

非舟比船之部

和漢船用集

有船名別物之部

苦船之事

第十卷

船處名附銅鉄之具

第十一卷

用具之部附網類之部

第十二卷

大工道具之部

和漢船用集卷第一

目錄

舟太初

諸說辨疑

和漢船用集 卷第一 目錄

〇一

和漢船用集卷第一

和漢船用集卷第一

金澤兼光編集

舟太初

抑本朝舟之發者日本書紀神代卷曰

伊弉諾尊伊弉册尊二神合為夫婦生日神號

大日靈貴次生月神云月夜見尊次生蛭兒雖

已三歲脚猶不立故載之於天盤椽樟船而須

風放棄

亦曰生鳥盤椽樟船輒以此船載蛭兒須流放棄

和漢船用集卷第一

天降供奉 三十二神

神名畧之

又副五部人為從天降供奉 神名畧之

又吾部造為件領變天物部天降供奉 神名畧之

又天物部等二十五人同帶兵杖天降供奉 神名畧之

又船長同共變領梶取等天降供奉

船長跡部首等祖 天津羽原

梶取阿刀造等祖 大麻良

船子倭鍛師等祖 津直浦

笠縫等祖 天津麻占

曾々笠縫等祖 天都赤麻良

為奈部等祖 天都赤星

ふきかやひのここと天神の御祖はみことのりさうけ天のいかに
のつて河内の玉河といふ所の密にたまふさうすは河内おやまの
國をえん白山さうすはさうすはまのいさひのりておやまの
けりていさひさうすのさうすはさうすはさうすはさうすはさうすは
本のくふさうす



神代卷口訣曰

天照國照彦火明命者

瓊瓊杵尊兄也号饒速日尊

高皇產靈尊乃授十種瑞寶

以之為天璽兼天盤船降

河内國河上孝峯

高皇産靈尊敕大己貴神曰為汝往來遊海之具高橋浮橋及天鳥船亦將供造

口決曰天の多船といふハ多ふ似てはくろ舟又とき

こくと云わたり愚俱の云を此船とてやく舟毎々愚業

多船と云ハ多盤櫓樟船の中略あり一舟ハすてに二

くらしおん神生々娘とすつらに又つらんとのことなり

大己貴神以熊野諸手船載稻背脛使其子事代

主神亦名天鳥船

口決曰船は法と船とくハかしくとき此補修後風去化よとむり世同船一の船なり船世と名付のち化して石とくあり

抄小回法人より多とありて櫓をおんたり又天の船船と

云ハ多此船やうは帆翼とつたり

首書小回法と云ハくろ舟ハたまこある船とあやつ

たり 愚按 是舟船又船の始也凡舸ハ小より大船とい

くろ舟と云ハたれとも是ハ使とるの舟をれハ小船

よろをぬくたつり此舟り又舟船の始又ハ小又舟の

始と云ハ一夫本集は星命の元ハ今舟そ阿まの川

法をぬいそげ妻むく舟と云ハハかしく舟をおん

あまよおせと云ハるく一法を船といりろ一人救

たふよまわらうんてろをおん

船船と云ハ首書は仁徳天皇の御代は速と云船

天の鶴取と云ハ列速もの義也

素戔嗚尊曰杉及椽樟此兩樹者可以為浮寶

浮寶此泥おほくあり急俱の曰舟ハ浮水と云ハ通財也

百人の室ぬちりると云首書よ曰浮寶ハこれ取と云ちり

舟ハ浮水也椽椽樟のこトハ舟用木の類ふと云と

瓊瓊杵尊

第三代

すさや何うかひくともやひあまれおへはれとたんと
むさぶのここと乃むすめたんとち姫よろびをさ姫乃
そとを妃とておほそにいすてゆ子をあれまた天は
即こく不のあきまれとていりすさふとてこの皇孫

とりくうそまか玉とて降さんと歌く

天照を神詔してまじれまゆく降さく一とまふち

天照屋命天を玉命なりくの神とち皆おとさくかの

みそのものちつらあふよのこさつくとらふとてのら

天のおく不そのことさうふ天上舟うりまた

天照を神詔天は素く不のあきまれとてハ坂瓊の曲ハ

恐の鏡茶菰の鏡三種の寶おとれまひるちとて天乃

爾玉をささむ

たんとむさひのこことまことおへぬす海をりて皇孫を

素不のあき乃とてをちひとてまうり降後とてとて

天のいまうとをなれり天の八重をささむとて

のちまきにちまねく日向の渡れさちふのみよにあま
より孫の附又天の八ちまきふねく言タカ天り系よ上てるち
つこのあうのくあつてその糸鼻のあうさ十ト恐持セれ長さ
七ナ恐アまた七ナ恐アとまへうの尻ヒてりりやまきまこ
ハ尻ヒたの尻ヒのく〜カク終センと〜て赤かちりあより後シ神ジを
はりり〜まきま〜ヒ由ユ〜と〜い〜せんと後シ附シふ八十
よろの神カミつらみあまかち相と〜ことを多と放れたを
やめといとも天の袖ウデ賣メみことのり〜そのまはくあつ
みんぢいこれ人はまうち〜るもねをりあ〜と〜と〜と
天アメ此袖賣の命ミコトまかりちそねむひのちまきてり〜いあ〜
その裳ヒラカ帯オビとほそのひまお〜さひ多とふくんでいひま

さふりちちまこの神天の袖賣と〜いあんち〜にま〜ハ
何の由ユへそやこたへ〜曰天神の御子とゆこのみちよかく
乃〜〜わらもねい〜とやあ〜とあ〜と〜と〜と〜と
天照太神の由ユみ今イマま〜たあま〜く〜りたま〜りりりりり
むく〜と〜ま〜つ〜んとおま〜つ〜る〜あ〜いあれ後ノチ田タ耆ヒ老ロ神カミ也
附ツケよ天の袖賣と〜と〜い〜い〜か〜んち〜と〜い〜た〜ち〜ち〜
ゆ〜んや〜り〜と〜ち〜んち〜よ〜さ〜き〜つ〜ら〜て〜ゆ〜んや〜と〜い〜て〜い〜
〜と〜ま〜の〜道ミチと〜ひ〜き〜ゆ〜ん天の袖賣と〜と〜い〜て〜い〜
あんちいづれの知チふ〜と〜や〜皇孫ミマノつと〜の知チふ〜と〜んや〜と
た〜と〜〜い〜つ〜く天神の御子ミコはは〜く〜日向ヒナタた〜く〜ら〜は〜く
〜と〜の〜み〜孫ミマノよ〜り〜孫ミマノへ〜と〜れハサ孫ミマノ勢セのサ長チカ田タ又マタ川カハのよ

いさへーよろくつをとおろーあ〜後々のいあんちう
かりうあふあんちうをとおろていさへー

天照太神より地神の始とまもも二代まもも天よお
ハ〜まもも天神本紀よふん〜りお〜か〜れ〜ことニリら
の濟ふま〜すを濟えふきまひの〜ことと天孫と云
十種の神室と天璽とて天の盤船よふ〜く何也困ふ天
く〜り地神の始をれ〜すてよん〜りま〜もによ
つ〜く濟ふ〜きのことと天孫と云天孫と云三種の神
室と天璽と〜〜後神あ〜〜日向の國は天孫と云
是地神の始とけ時猿田彦を神先強と云たま〜今海陸
道神とあふきま〜りの神也海河又柔於日云神と

増穂大和屋れふ出せるふろくをい〜〜よ載と

猿田彦大神 宇妻女御子



天照太神誨倭姬命曰是神風伊勢國即常世之浪重
浪飯國也傍國可憐國也欲居是國故隨太神教其詞
立於伊勢國因與立齋宮于五十鈴川上是謂磯宮
天照太神始自天降之處也

倭姬命世記曰纏向珠城宮の御宇天皇家五年伊勢の國
み〜りあひ御宮處と〜ふ大若子命とけ〜り〜ひ



漢述抄曰おまきのころこハかも此名なり多孫を^{カモ}鷲ふよせて
をきりとりとよめりかもはくーまこハ^{カモ}鷲はくはく
又このころ此中よみことのりより孫みぬの國名ありまこと傳
る^{ヲキツ}奥香鴨とりのみちの万葉よ多くよめり

鷲^ウ草^{カヤ}草^{フキ}草^ア草^ワ草^セ草^ズ草^ノ草^ミ草^コ草^ト
不合尊

第五代

^{タテヨリヒメ}玉依姫のまことと立て^{クワケヒ}皇妃とすありちりしこのまこと
むめちりり^{ジンム}ら此沖子をあれまた

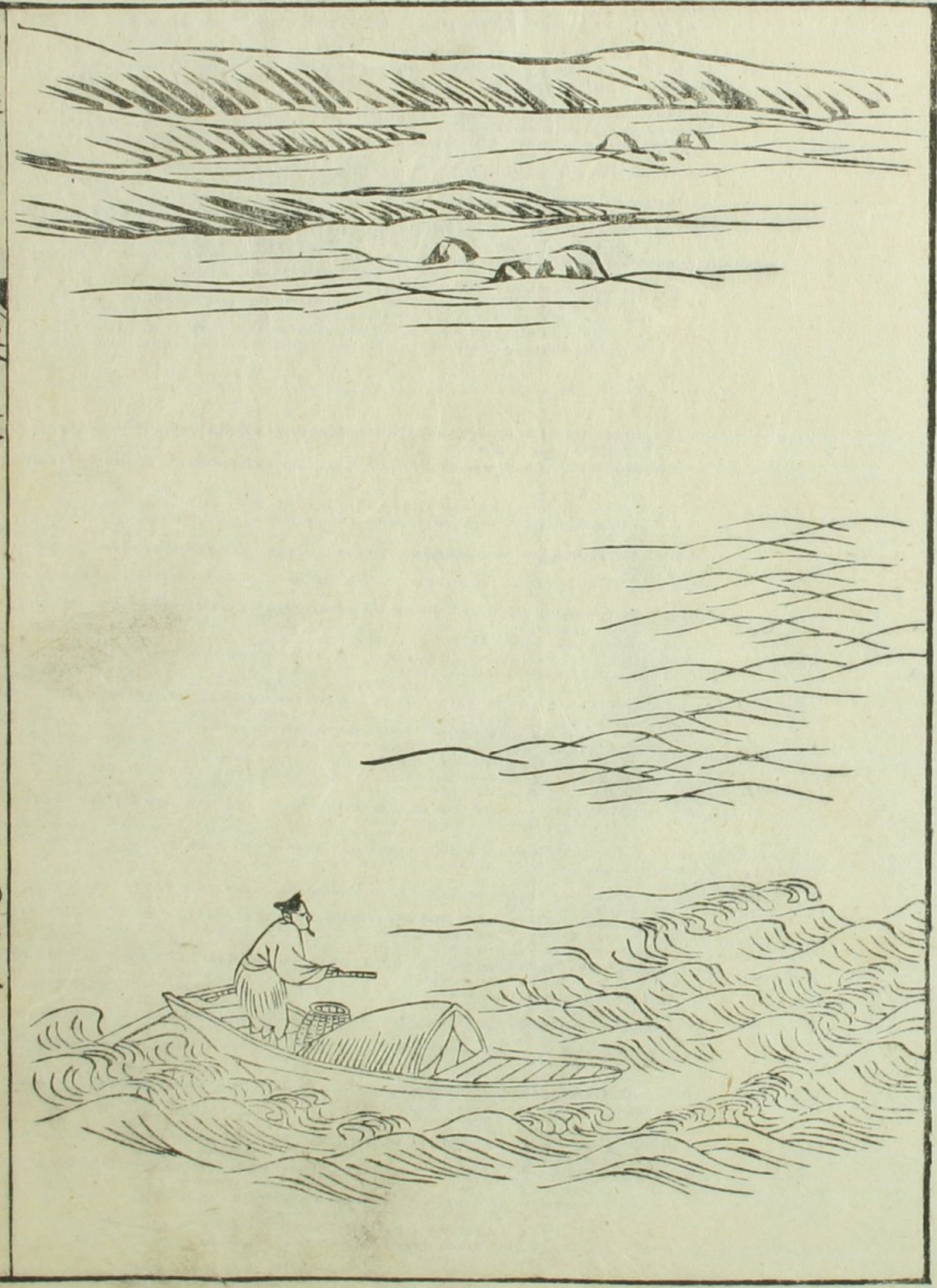
神武天皇

人皇第一代

天孫むこあきとけうも^{カモ}鷲とありせまのまこと^{カモ}鷲と

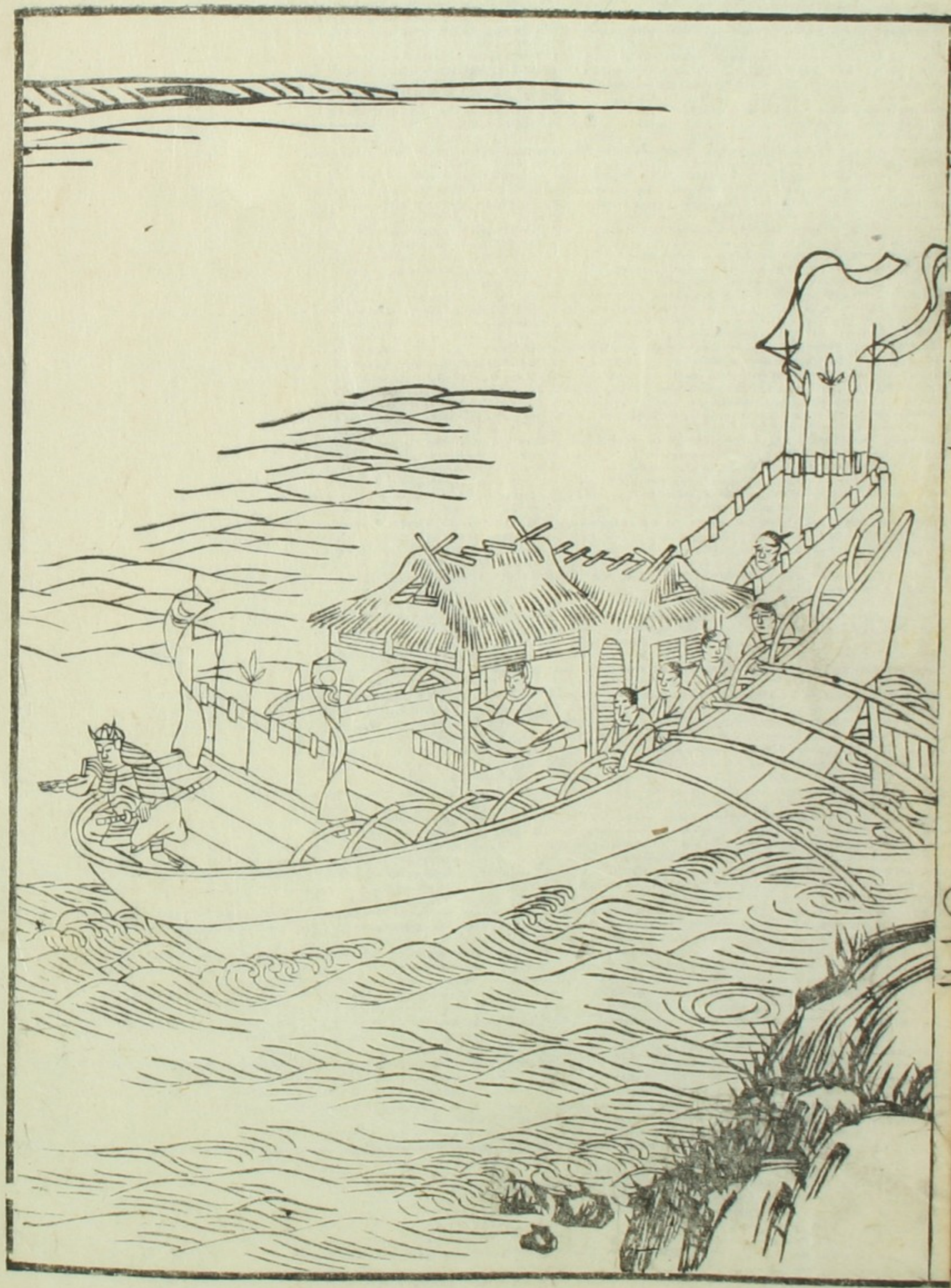
らのゆきかたりのまかハかんやまんとこれひこのみこと
着向事本紀曰おもく又志をば此あちまきタリのみん
りよよきくふありま^{カモ}鷲とありその中よます天の
岩母のりてま^{カモ}鷲とありのりま^{カモ}鷲とありま^{カモ}鷲とありま^{カモ}鷲とあり
ら^{カモ}鷲とありま^{カモ}鷲とありま^{カモ}鷲とありま^{カモ}鷲とありま^{カモ}鷲とあり
ぬ^{カモ}鷲とありま^{カモ}鷲とありま^{カモ}鷲とありま^{カモ}鷲とありま^{カモ}鷲とあり
これあきとけ^{カモ}鷲とありま^{カモ}鷲とありま^{カモ}鷲とありま^{カモ}鷲とありま^{カモ}鷲とあり
曰理まこと^{カモ}鷲とありま^{カモ}鷲とありま^{カモ}鷲とありま^{カモ}鷲とありま^{カモ}鷲とあり
ま^{カモ}鷲とありま^{カモ}鷲とありま^{カモ}鷲とありま^{カモ}鷲とありま^{カモ}鷲とあり
酉天孫のり^{カモ}鷲とありま^{カモ}鷲とありま^{カモ}鷲とありま^{カモ}鷲とありま^{カモ}鷲とあり
ま^{カモ}鷲とありま^{カモ}鷲とありま^{カモ}鷲とありま^{カモ}鷲とありま^{カモ}鷲とあり

和漢雜記卷之



一

和漢雜記卷之



一

いづれと縁これとまゝ結きてとめてのたまりてらんちんを
やとていづれとこれふは神名とていづれとこれとて我
づこの浦ははる天の西のまきとていづれとまきとていづれと
むうへとていづれとまきとていづれとまきとていづれとまき
みちびきせんやとていづれとまきとていづれとまきとて

天孫ことこのりして倭人は推す所のすえとてすえとていづれと
しめみおれとていづれとまきとていづれとまきとていづれとまき
名をたまひて推根俵とていづれとまきとていづれとまきとて
始祖たり

あゝきのみことよりけ神代まゝいづれとまきとていづれとまきとて
れを屋笠校の造りいづれとまきとていづれとまきとていづれとまき

天白文徳の如より我艦をおこしたまひ統禦をへて安藤
の國埃乃文は吾たまひそれより吾徳の國の如文を立是よ
吾たまひとていづれとまきとていづれとまきとていづれとまきとて
ろへ吾徳とていづれとまきとていづれとまきとていづれとまきとて
傍山の東南檀原の地を移したまへていづれとまきとていづれとまき
あうける天の雲母たは神代とて秋津渚の文ははるけり

續宗林良材集は曰日本紀竟富の神武天白文とていづれとまきとて
それより今も天孫曆とていづれとまきとていづれとまきとていづれとまき
天地乃際むろといへとも万國よまきとて天竺衣具の大
國もあはるれまきとていづれとまきとていづれとまきとて

本紀の如く天孫の神代は始と地神よりいづれとまきとて

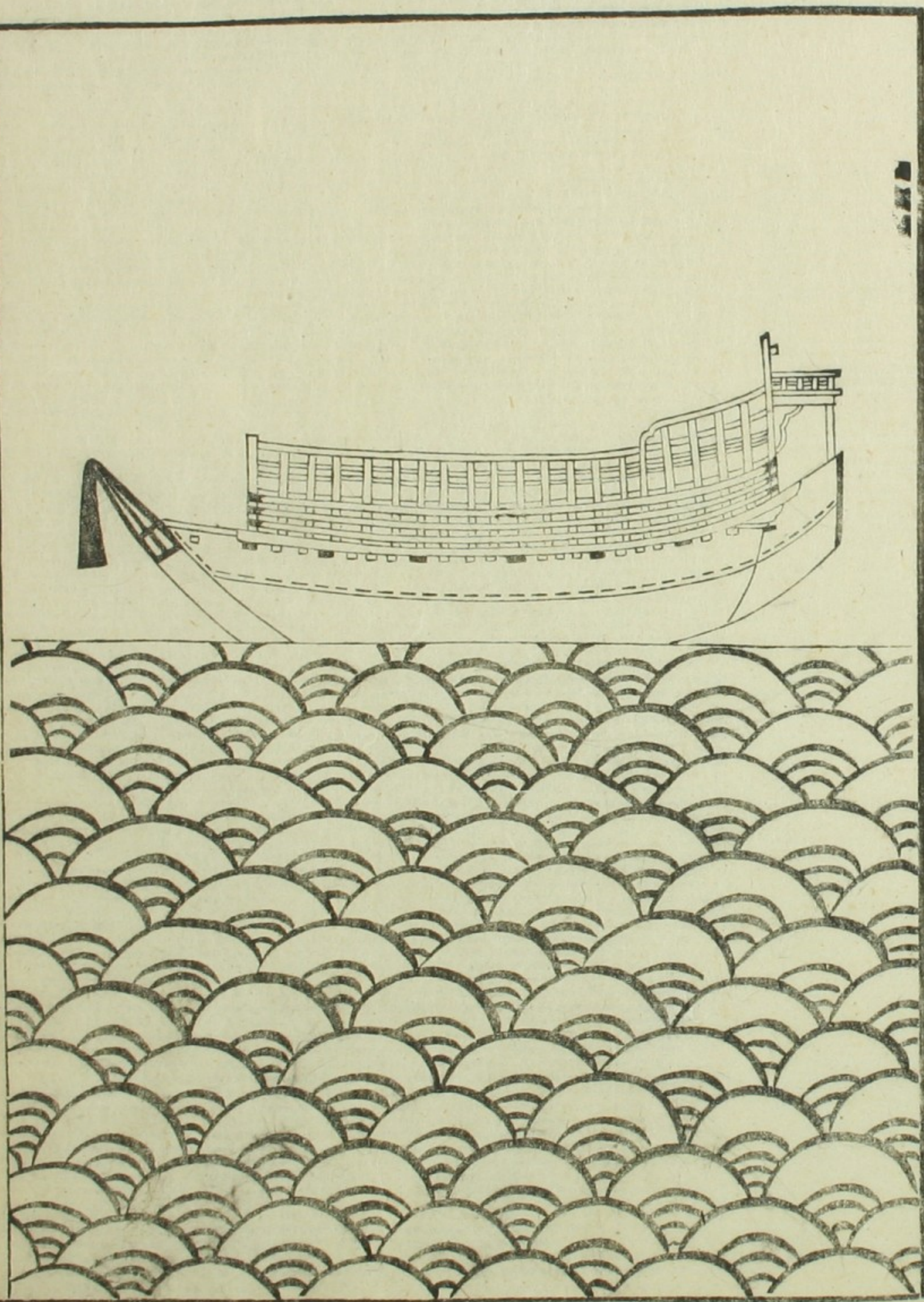
朱子本義曰涣散也為卦下坎上巽風行水上離披
 解散之象故為渙 又曰以巽木坎水舟楫之象故
 利涉大川朱子かのこゝに渙は舟楫の象故
 て木在水上也と注し致遠以利天下と云本文を疑ら
 ずハ術者云んともハんゆりとも朱子博考大才といふもい
 うゝり聖人およん聖人の徳を術とせば却て朱子乃
 強ち云ん朱子獨け緒有り先儒もいふもるぬ後儒もい
 ちゝ朱子より後ちえ乃朱祖義句解曰致遠以利天
 下と云ハ可以至於遠方以利益天下と云へり九曰
 夷八蠻仁貨財を貢一國を賑す是致遠以利天下なり
 とも云りもそ貢上するこゝハ利歟の利よりぬ義といふ

利とするは下要の耳よふれても術又づつこゝハきこへん
 られども長きと云渙す人々此銀河の二字後の人を信
 正義曰黄帝堯舜天下をおさめたまふ易の卦より
 るの事を教ふるも衣裳をたぐることを乾坤にとり
 ても亦一也亦樽と造ることを渙の卦めとりてても亦二
 宮室を修ることも大壯の卦よりてても亦七あり上右
 八人皆完居して野處せり孟子曰當堯之時水逆行
 氾濫於中國蛇龍居民無所定下者為巢上者為
 營窟と云へり天下は宮室を修ることも亦あり
 こゝを考へり一もハ百柄の始亦ハ万葉の初也

和漢船用集 卷之一

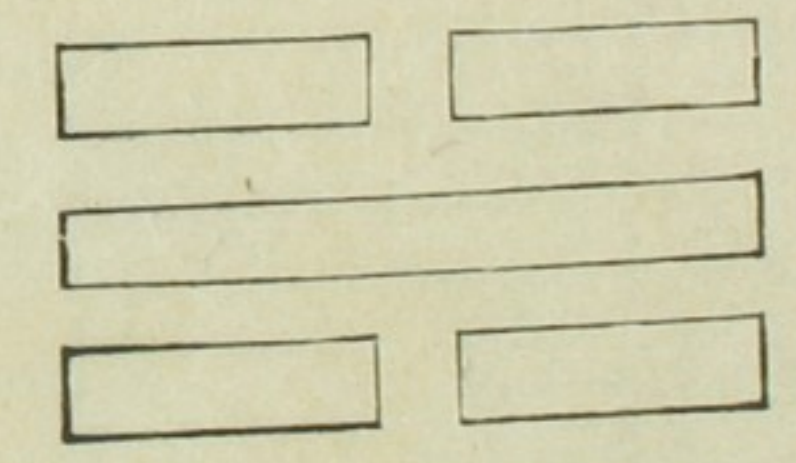
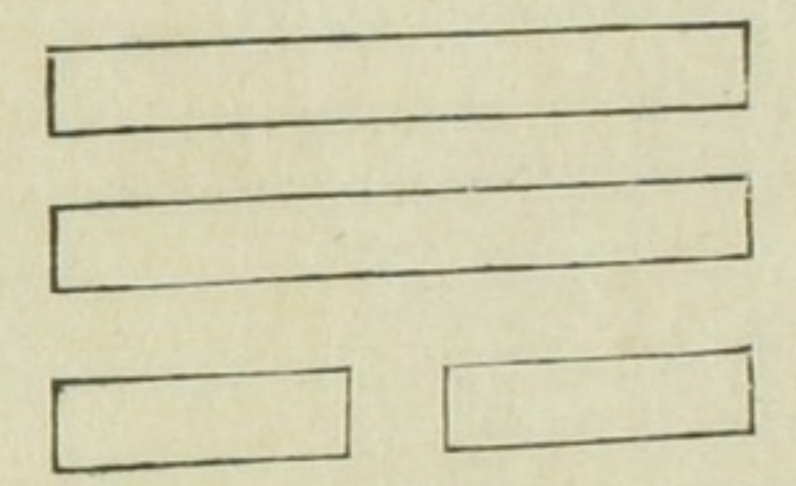
卅五

中漢公用集 卷之一



風水渙

發舟卦



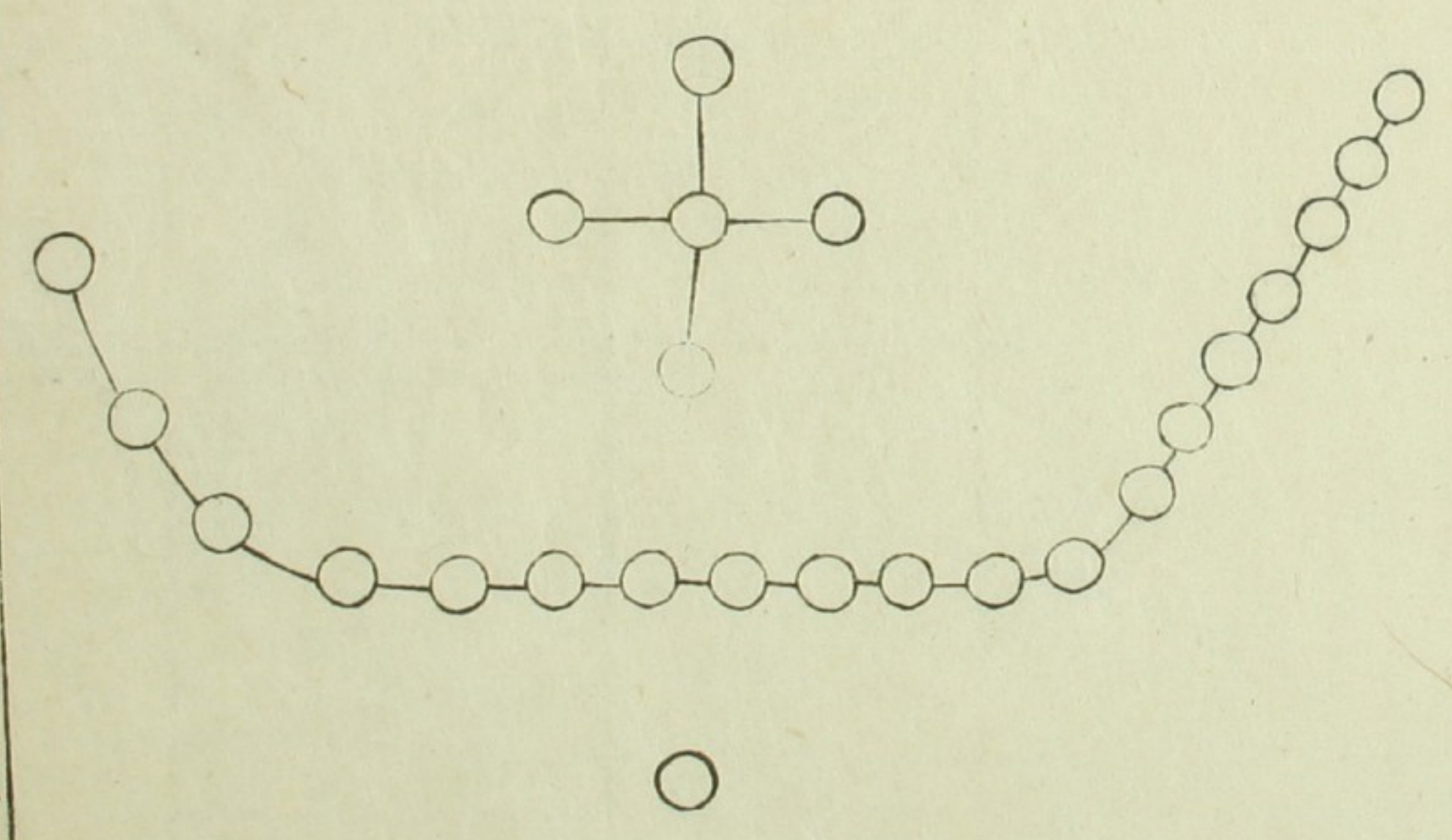
舟楫之象

巽木坎水

中漢公用集 卷之一

千貨万器皆是ふよのくちの伏義帝の卦一陰一
 知本のありは浮と云ふこと今より二天の臺も知れよ一七を
 始雅う知ん周文王ハ八者そ六十四卦に終る万物其象極
 もり 本邦の家格とよめり真極あり無法記述ふ
 曰船ハこれ一よりや九ふきハまる或ハ八ハ八又定て老
 陰若陽の教ふ成と云ハ別巽本坎水の數ふおころ天一
 水とせと地ハ水と成は天地陰陽合して九と成天と
 本とせと地ハ水と成は天地陰陽合して九と成天と
 九と成と云ハ河圖の數ハ成る成之河圖洛書皆水中
 より出り知の神靈なり

發舟洛書陽數之圖



緒統辨疑

天盤船

万葉虛見津山跡國の臣李吟の曰楊玉
饒速日命乘天盤船而廻行虚空故此國號虛

見津大和國天盤船者鳥也見古事紀序云

曰一書高小清補の奥後抄云曰云々曰の命て
の云々云々のり云々大云々云々及ていふを
云々云々云々云々云々云々云々云々云々

日本紀云曰大己貴神目之玉牆内國及至饒速
日命乘天盤船而翔行太虛也睨是郷而降之故
因目之曰虚空見日本國矣

舊事紀云饒速日尊十種瑞寶と天璽とて天

々々々々々々々々々々々々々々々々

万葉云あきのつ薄山跡の云々云々云々云々

云々云々云々云々云々云々云々云々云々

臣李吟云是云々云々云々云々云々云々

皇け國は云々云々云々云々云々云々云々

東有美地青山四周其中亦有乘天盤船飛降

者余謂彼地必當足以恢弘天業光宅天下蓋

六合之中心乎厥飛降者謂是饒速日也

云々神武の降云々云々云々云々云々云々

久方乃天の探女云云云々云々云々云々云々

李吟云天の孫女云々云々云々云々云々云々

うらと日本純二よき津八津の國也彼天雅彦も
 思船よのりてくよりけき津よきまりそ思船
 小舟一船ハ河内は盤船イハフ子船神とくありをけるの由
 こそ思ハ饒速日此命く必もあくと治せり
三統理平
 ちあけつ天の思舟なるそ秋はしまふハ文をくめく
 續高林良枝集よ曰日本純竟宴よ神武天白を
 漢舟のあて思舟の舟好くこと治高林良枝集よ
 くアハくより新古今集よハ神祇の言玉依姫と詠はより
 新古今集抄よ曰天の思舟ハ天よりくこと一もの
 名くことハ船ヒヤカケルとハく曰は書よもものことなり
 ことくより愚按天の思船とるといふはわくの舟より

いづかひに季吟古事紀序ふんぬといふも不審大和道
 於吉野とまといはるは神武の代よりして舞而神紀不述
 頭ハ忍鳥とる是大和く思舟と名とることとんは
 日本集のうちを思は出たの思船ハ名はして天の採女
 思船ハ舟と治せり去りも奥板抄よ治せるとおもれ
 ことと又山依の風とおもむきに思舟くけくの治り
 日本純神武の代にこれを治せらるるをとるくけ
 思船名なるハ首尾とる尾既ともくハきとともよ
 へにまりいけくぬきてくことと詞ありくは新古今
 の思船玉依姫と詠よよめるをを考出く出足のをた
 りの文よりかたりまして天孫今も傳りてまことと

るみはとらり此方り

百廿

あきなるらふ船のかつての縁よりあつ若こり
扇の縁ハ流あふんあのはは日舟を鴨ふ似く作らた
季吟の流は流あふんあのはは日舟を鴨ふ似く作らた
天の雲船の雲舟を舟あつて舟あつて舟あつて
べー藤垣よも舟のくもは似てとてり

夫本

船りけ芦屋の沖を舟れよそめ鴨のわらわそそ

源氏すゆのせふたちのさねをのうへるそそそ

もといふ舟のそとちり又選海城は問然鳥逝鶴

如驚鳥之失侶と有も舟のそとちり 本邦神代天

鳥船天鶴船も又速も奥も鴨も云の流漢小鳥舟を

舟イカケキニセシヤ船イカケキニセシヤ首イカケキニセシヤ雀イカケキニセシヤ筋イカケキニセシヤと云の流又帆を舟の舟と云船の

教イカケキニセシヤふイカケキニセシヤ隻イカケキニセシヤ翼イカケキニセシヤの字と云舟と考ふ一日本純意舟純よ

あつ鏡速日命天の雲舟も云く河と鴨岸も云く

右虚と船形或はま山四月を中は天の雲船よ云く

あつこの流れをそと云れを今船の何れへき所

おろしむこの舟よ雲船をそと云く季吟の名と

流せりもこれより出ると云くそと云く雲船と

名と云くそと云くあやまゆりそと云くそと云く

とく天孫降降の雲船長楫取舟子等供なる

とこの採女も雲舟も流よと云くそと云くそと云く

とくを流せり又風雅集よ

之方の天の思ふにたすけし神代の浦や今のももを
 けふのころより多かりき神代の海をさるべし
 さるべし原平の金鏡の時義経を日本海海の刻は日向
 て天照を神と敬ふふ初結し終是を初日の社と云今
 松屋町裏丁ふあり原平磐表池に又くしり言津とさる燈巧くさ
 すと磨りつう又百年余に及んて敬ふ六山と成信の
 江の原の娘おも山のどくく海へあせく一里の余田留
 人家とをねり去うれは回半丁純よる藤家白ふも
 神代の崖家ちらんことあしとくく人し又もよ
 あしにして舟の虚ををり山家にいつくことたり
 列仙傳は曰真志呉若令陵にいつく舟とくして豫ま

かいとんとともは舟人取らば若かりとと若真志の云海
 ためをふさだく安座して志きりたつてちるをさるべし
 くる汝くちあふ舟とやんと然して士能をぬ舟とさしん
 さんてりややく空と志のきて廬山のつきとさして紫
 霄峯乃令開洞ケツヤマふいつう又雅の房ハ空舟よ駕して門外
 の板乃事のくとり飄くことて雲ふのつづくさるといふ
 是をふあしむして舟の空をりて山家ふいつく神仙の
 りたところの鏡速日のそれ神異真君呉若子能く神
 仙微妙ふまふつてもおとくくたを虚を移りまると
 翅ツバサとくくんや雲舟と舟ふりたことて志とせを神
 國の神異ふ可思候ゆまよつてつらん天の盤取も

名をよあ〜むび〜と云ふことと知べ〜

神代卷一書云二神遂ニトミクダハレテ為夫婦先生蛭兒ヒルコフ

便載葦船而流チノセテアレニ

は決よ云葦船ハ葦ハつんで流也若復抄ハ曰葦船
ふきて流ハなり首書ハ曰葦船ハ葦一葉をり〜
とす也い〜り一葦抗之也

一書云素盞鳴尊トハニツナヲ以垣土作舟乘之東渡

は決よ曰ちふつちをり〜舟をつらハ神異なり
若よ云去をり〜舟につて〜と云ハ神乃のふ思
微あり子細く物事い〜と云ぬありけぬのふいけ

ちふなり〜と也是り〜稟者〜人云船ふ
〜あり委〜名數古船の下ふ也

亦曰大己貴神之平國也有一箇小男ヲクナチ以白麩皮カ、ミ為舟

首書ハ曰白麩の皮を舟〜
〜と云〜其神乃抄ハ云〜と云〜

有而事也曰大己貴神とむけ〜
ふ〜の飲食イニシヨクの附ハあり〜海上よ〜
声ハなり〜を求む〜
時ハ浪ハ極ハより天の羅摩ハふ〜一人の小男あり白
麩の皮を以〜舟〜
ふ云大國主神書云のみおの〜

淮南子曰古人見竅木浮而為船

呂氏春秋曰虞姁為船

東哲發蒙記曰伯益為船

墨子曰工倕為船

山海經曰番禺始為船

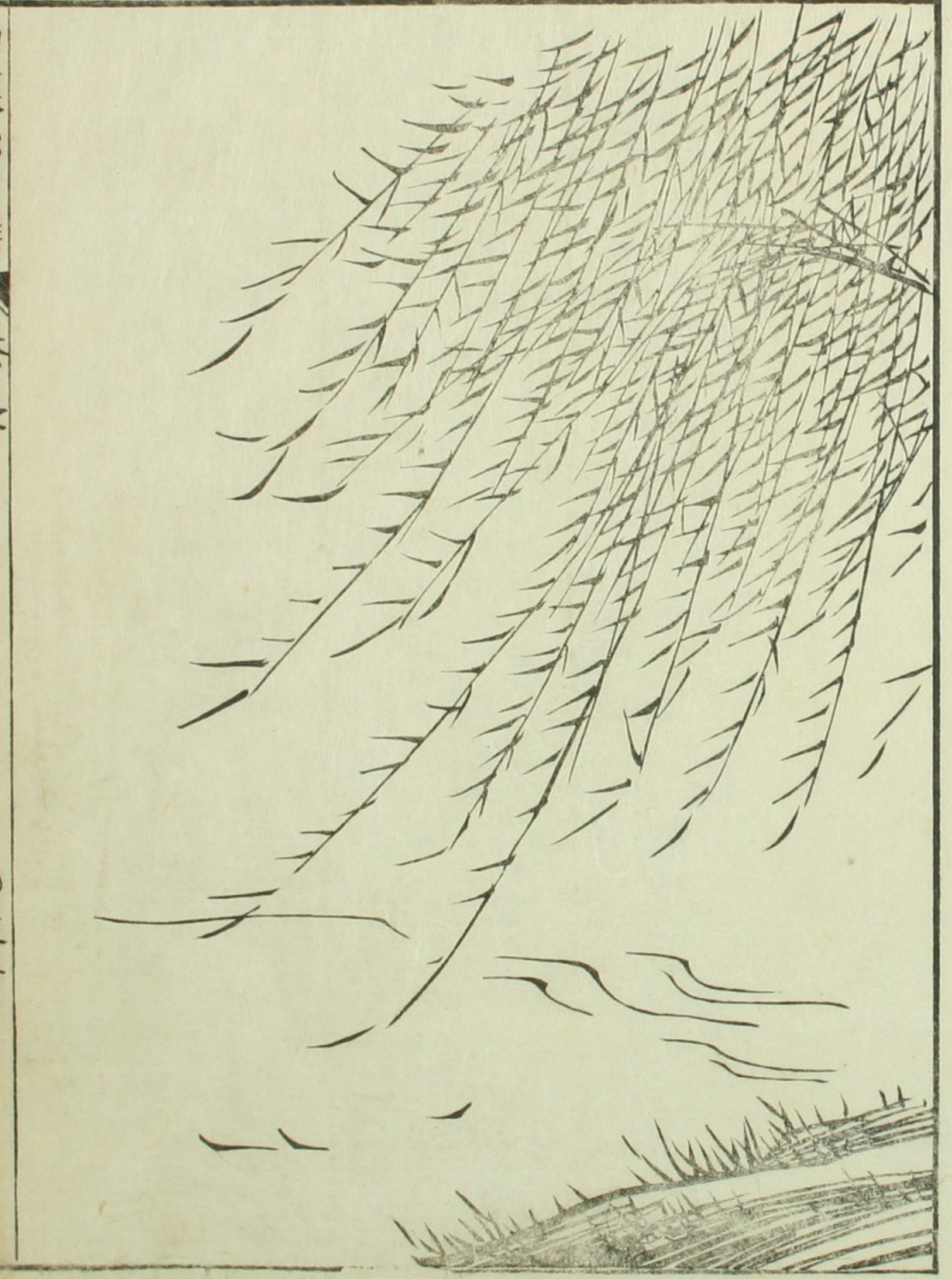
物理論曰化狐作船

事物紀原云黃帝斬蚩尤戰叔舟楫則始於黃帝也

勺會曰黃帝見浮葉為舟

世本曰黃帝二臣共鼓貨狄為船

又曰共鼓化瓠二人一命一木を剝て舩と一木を剝て楫とて不通と云ふ或ハ大橈子作り始と云はあり又化貝狄柳葉の浮いと云て舟と作り始はし楫物浮棹の意を化と云ふ勺會の說より云有
かゝる人



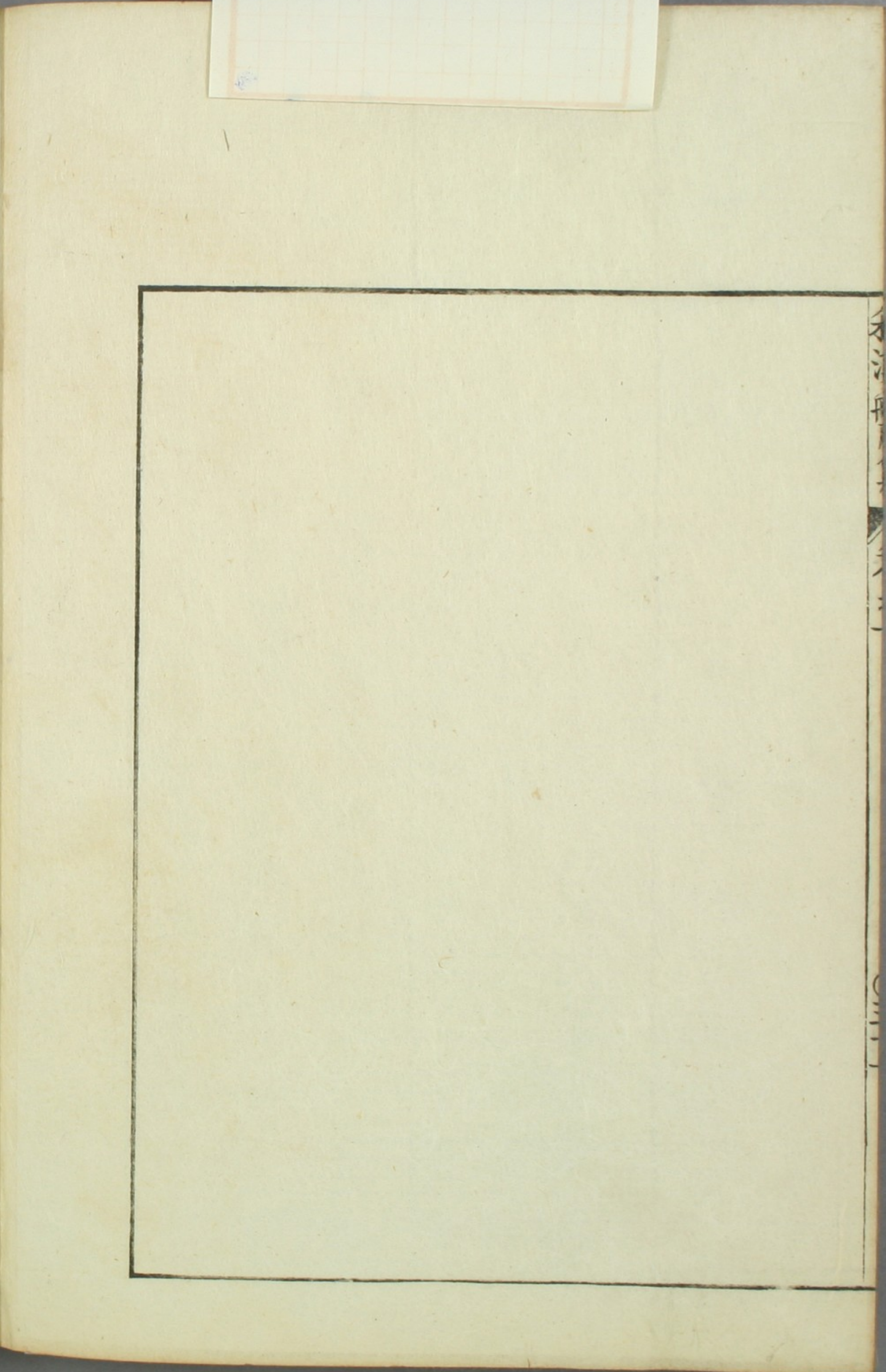
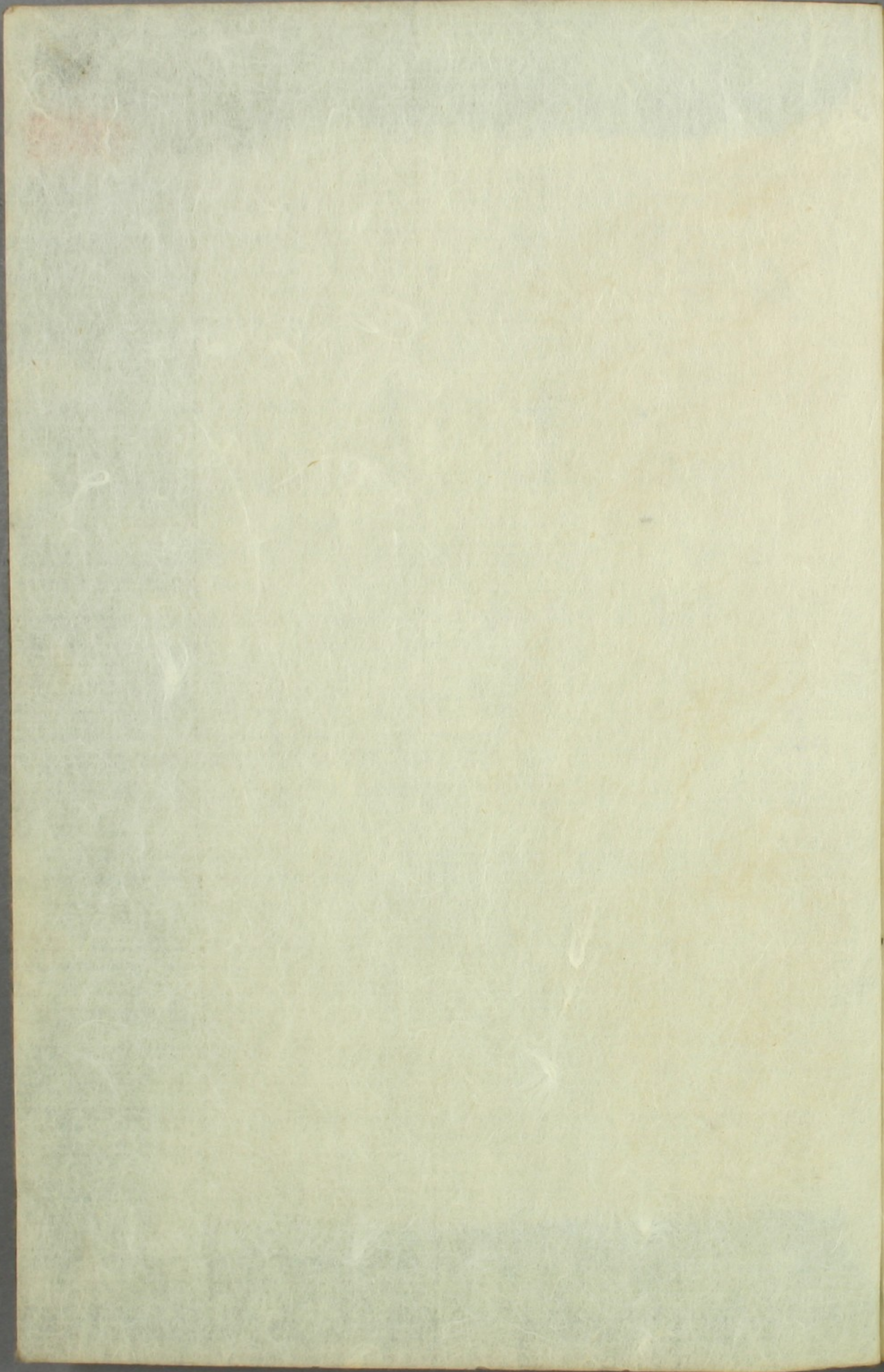
三才圖會筏之圖



拾遺記曰軒皇變桡以造舟楫則是未
為舟前第桡以濟矣筏即桡也蓋其事
出自黃帝之前今竹木之排謂之筏是也

又曰猪衛公主東海嬉遊せんとき遊ユウせんとき遊ユウせん
神農シノノと造ツクらむしけし時トキ取トルいまさりくくは
艘イカダのたるへと浮せりは別ソノ巽ホク本ホク坎カン水スイの象シキ
周ユウくく舟フネの成なり也なり

和漢船用集卷第一終



Vertical text on the right edge of the page, possibly a page number or chapter indicator, written in a traditional East Asian script.

